

教科目標

歯科衛生士科

1. 養成目的

多様化する地域住民のニーズ（要望）に応えられるよう、多（他）職種と連携しながら自らの専門性を発揮できる歯科衛生士を養成する。

2. 教育目標

スペシャリストとしての基本的スキル（知識・技能）とマインド（倫理観）を修得し、全員が歯科衛生士国家試験に合格する。【連携】を能動的に学ぶことにより、問題解決能力、周りを見ながら行動できる能力を身につけ、他のスタッフと協働できる歯科衛生士となる。

3. カリキュラム

教育内容		科目	総時間数 (総単位数)
モチベーション プログラム	基礎分野	生物学 / 化学 / 英会話 / 歯科医療倫理学 / コミュニケーション論 / キャリアデザインⅠⅡⅢ	150 (10)
ミッション プログラム	専門基礎分野	一般解剖学（組織発生学含む） / 生理学 / 生化学 / 口腔解剖学（歯牙解剖学含む） / 口腔生理学 / 口腔生化学 / 病理学 / 薬理学 / 微生物学 / 口腔衛生学Ⅰ / 口腔衛生学（衛生統計学含む）Ⅱ / 衛生学・公衆衛生学 / 衛生行政・社会福祉学	345 (23)
プロフェッショナル プログラム	専門分野	歯科衛生学総論 / 歯科臨床概論 / 保存修復学 / 歯内療法学 / 歯周治療学 / 歯科補綴学 / 口腔外科学 / 小児歯科学 / 歯科矯正学 / 高齢者歯科学 / 障害者歯科学 / 歯科予防処置論ⅠⅡⅢ / 歯科衛生学実践 / 歯科保健指導論ⅠⅡⅢ / 歯科衛生過程 / 栄養指導 / 口腔ケア / 歯科介護学 / 歯科診療補助論ⅠⅡⅢ / 医療安全学 / 歯科放射線学 / 歯科材料学 / 臨地実習Ⅰ～Ⅳ	1785 (79)
	選択必修分野	【必修】 審美歯科 / インプラント / 歯科看護学（臨床検査含む） / 歯科衛生総合演習Ⅰ（基礎科目系） / 歯科衛生総合演習Ⅱ（臨床科目系） / 歯科衛生総合演習Ⅲ（歯科衛生士業務系） / 歯科現場学 【選択必修分野】 ホワイトニング / 小児食育 / 歯ならびコーディネート	315 (21)
合計			2595 (133)

※ 選択必修分野は3科目のうち1科目のみ選択し履修する。

※ 卒業・進級に必要な総時間数（単位）： 2565時間（131単位）

4. 学年（学期）目標

学年	到達目標
1年 (前期)	「自己理解」ならびに「他者理解」に努め、歯科衛生士としての将来像を想像し、歯科医療従事者として必要な基礎知識・技術を修得する。
1年 (後期)	自己理解ならびに他者理解に努め、「受容」と「共感」ができるようになる。 自身の目指す将来像を明確化し、歯科医療従事者として必要な基礎知識・技術を修得する。
2年 (前期)	歯科衛生士は医療、保健、福祉の各分野で幅広く活躍する職種であることを理解し、連携の視点から患者様の安全と安心を確保した歯科医療技術を提供するための専門知識・技術を修得する。
2年 (後期)	歯科衛生士の社会的役割ややりがいについて、実際の歯科医院で学び、患者様の安全と安心を確保した歯科医療技術を提供するための専門知識・技術を修得する。
3年 (前期)	自分の課題発見と自立学習を身につけ、歯科医療従事者として適切な患者様への医療サービスが提供と国家試験に合格するための分析スキルを習得する。
3年 (後期)	社会人として歯科医療業界に出るための自己確立を行い、歯科衛生士国家試験に合格する実力を身に付ける。歯科医療従事者として適切な患者様への医療サービスが提供できる人材となる。

5. 取得目標資格

資格名	必・選	認定団体	認定方法
歯科衛生士	必修	厚生労働省	養成施設卒業（卒業見込）、 国家試験受験
上級救命講習	必修	東京消防庁	講習会受講 筆記試験
コミュニケーションスキルアップ検定	必修	滋慶教育科学研究所	筆記試験
口腔ケア5級認定資格	必修	日本口腔ケア学会	筆記試験

6. 就職分野

就職分野	職種	核能力
歯科医院、歯科大学・医科大学附属病院 総合病院、企業内歯科室、歯科診療所 保健所、保健センター、口腔保健センター 歯科医師会、高齢者施設 （特別養護老人ホーム等） 障害者施設（作業所、デイサービス等） 歯科関連企業、歯科衛生士養成校	歯科衛生士	歯科予防処置技能 歯科診療補助技能 歯科保健指導技能